

## 第3学年 総合的な学習の時間 指導案

### 1 単元名 「保存食を知ろう」

#### 2 テーマ設定の理由

自分で目標を立て、自分で調べ、自分で完成させ、また、その完成を自分で実感できる。こんな経験ができれば、子どもたちは、常に主体的に身近な問題に取り組んでいこうとするであろう。しかし、目標がしっかり見えていること、自分で調べていく方法がはっきりしていること、達成したことを実感できることなど様々な条件がそろわなければ、小学校3年生の子どもにはなかなか難しいことであろう。

本校には、渋柿の木があり、また、3年生ではサツマイモや大根の栽培を行ってきた。これを生かし、干して作る保存食を学習のテーマに据えれば、その条件がそろい、主体的に学習に臨む子どもが育つのではないかと考えた。作り方を調べて作って食べるという目標、食べることのできる達成感がある。そして、干すという活動を繰り返す中で、追究する方法を身に付け身に付けた方法を使い、さらに新しい方法を身に付けていくことができるのではないかと考えた。そこで、干し柿、干し芋、切り干し大根を順に作っていく過程を通して、主体的に学習する態度を育てたいと考えた。

#### 3 身に付けさせたい力

- ・保存食（干し柿、干し芋、切り干し大根）を作っていく中で、干し方の方法を調べ、共通点や違いに気づき、経験を生かして、次の活動に取り組むことができる。  
(学んだことを生かす力)
- ・保存食の作り方を調べ、自分が取り組む方法を決め、実行していくことができる。  
(情報を活用する力・自己決定する力)
- ・友達と話し合いながら、保存食の作り方を決め、班で保存食作りに取り組むことができる。  
(関わる力)
- ・調べたことや経験したことを記録にとり、リーフレットにまとめることができる。  
(表現する力)

#### 4 単元構想

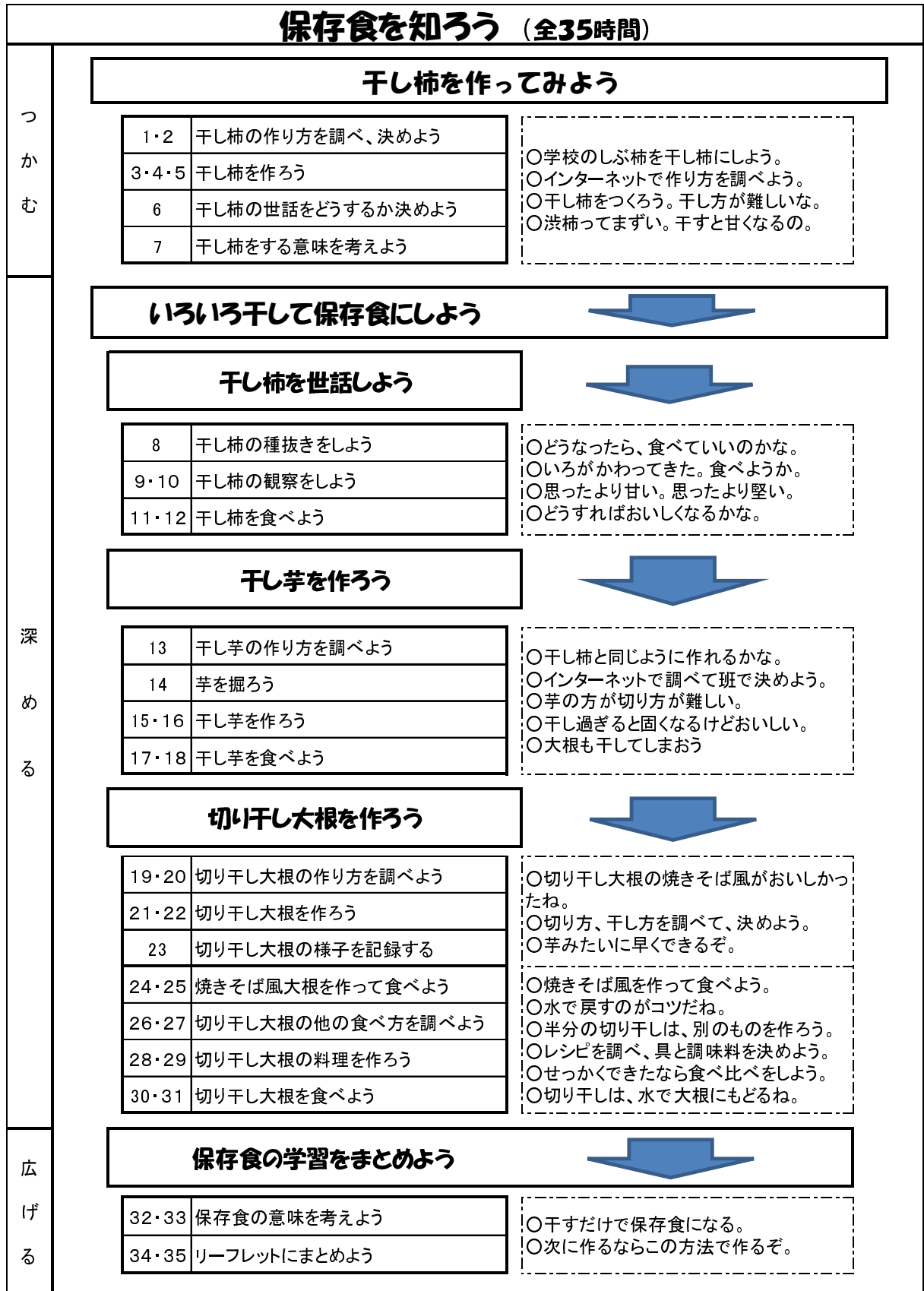
つかむ段階では、干し柿を紹介したり、本校の渋柿の木を見せたりすることから、自分たちで調べて干し柿を作ろうとするであろう。この段階では、子どもたちの調べや体験を手引きし、干し柿づくりの面白さや不思議さにも、触れさせていく。

深める段階では、別の保存食に目を向けさせる。干し柿を作った子どもたちがサツマイモや大根の収穫を迎えれば、自然に干して食べてみようという思いが出てくる。この機会をとらえて学習を組んでいく。干し柿と共通する作り方はその経験を生かし、違っているところを改めて考えさせる。切り方や新たな干し方に気付いていく中で自分たちの選ぶ方法を決定させ、活動に取り組みさせていく。また、切り干し大根に至っては、調理をしないと食べられないので、そこでも、調べて話し合っ作るとい活動をしていく。

広げる段階では、調べた作る方法、活動の記録などを基に、分かってきたこと、体験したことをリーフレットにまとめる。

本単元は、同様の過程を繰り返す中で子どもたちが主体的に活動しようとすることを期待するものである。

(3) 単元構想図



## 5 本時の指導

### (1) 本時の目標

それぞれが調べた切り干し大根を作る方法を出し合い、班で話し合い、自分たちの班が作る方法を決定することができる。  
(関わる力・自己決定する力)

### (2) 本時の意図

切って干すだけなら自分たちでもできると考えて、子どもたちは切り干し大根作りをインターネットなどを通して意欲的に調べている。そのホームページの中に、普通に干すのではなく、ハンガーで干すページを混ぜて紹介してきた。子どもたちの選択は、そこでハンガー干しとかご干しに分かれると考えられる。

本時では、切り干し大根の作り方のいろいろを発表させた後、ハンガー干しとかご干しの二つに絞り、自分の班はどちらで作るのかを、根拠をもって選ばせたい。その根拠は、どちらが「おいしくできるのか」という視点だけでなく、「自分たちにできるのか」「自分たちがやりたいのはどちらか」といったような判断も含んで考えさせたい。

グループの話し合いの視点を明確にもたせ活発に話し合わせたい。それを効果的に実施させるため、論点を板書に示したり、ホワイトボードに記録させ、発表に使わせるなどして、グループの話し合いを支援していく。また、その視点のもち方は、前回の学習を生かし、次時の学習の視点ともなりうるように、スキルアップさせていきたい。

### (3) 指導過程

時	学習活動	指導上の留意点
3	<p><u>前時の学習を振り返ろう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の調べたものを見て分かったことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に、自分がやりたい切り干し大根の作り方を調べ、まとめさせておく。</li> </ul>
15	<p><u>切り干し大根の作り方を全体で発表しよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3～4日干す。</li> <li>大根を半分に切って細長く切る。</li> <li>うすく切って7mmぐらいの太さに四角く切る。</li> <li>干しいもみたいに皮は取らない。</li> <li>干しいもみたいにかごに干す。</li> <li>2, 3日でひっくり返さないといけない。</li> <li>かごに干すとくっつく。</li> <li>ハンガーに干すって書いてあった。</li> <li>ハンガーに干すときは切り方が違う。</li> <li>どっちが手間がかからないのかな。</li> </ul> <p><u>班で行う切り干し大根の作り方を決めよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハンガーで干すって面白い。うまく引っかかるかな。落ちそう。</li> <li>きちんと切れれば、いいんじゃないか。</li> <li>かご干しなら下手に切れても干せそう。</li> <li>かごにくっつくだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い前に、ペア学習で自分の考えを交流させ発表の練習をさせる。</li> <li>干し柿・干し芋を作った時に考えた視点を選択肢として明確にして、板書にまとめる。(干し方、干す時間・場所、切り方、皮をどうするかなど)</li> <li>ハンガー干しが紹介されたら、本物を見せる。</li> <li>ハンガー干しとかご干しが紹介された時に、それに伴う違い(切り方・大きさ、場所、手間など)に目を向けさせる。</li> <li>班での作り方を決めることにより、話し合いを、必然でより具体的なものにさせる。</li> <li>ホワイトボードに班の考えを書き出させ、話し合いの助けとさせる。</li> <li>司会、書記、発表者を決めて行う。</li> </ul>

30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハンガー干しならくっついた方がよさそう。</li> <li>・ハンガーの方が切り方が大きい。</li> <li>・でも、うまく切れなかったら干せないよ。</li> <li>・芋だってきちんと切れたから大丈夫。</li> <li>・ハンガーを持ってこないとできないよ。</li> <li>・かご干しの方が慣れていていいんじゃない。</li> <li>・ハンガー干しは面白いからやってみたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合った結果は、選んだ①干し方と、②その理由、③その他決まったことで、発表させる。</li> <li>・書き出された意見の中で実施が決まった方にアンダーラインを引かせる。</li> </ul>
40	<p><u>班で行う作り方を発表しよう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私たちの班は、干しいもと同じようにやれば上手にできると思うので、かご干しで、皮のついたまま5mmの太さに切って並べます。</li> <li>・私たちの班は、場所をとらないし、よくかわきそうなハンガー干しにします。7mmで大き目に切ります。ベランダにぶら下げます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施する方を選んだ理由をホワイトボードにメモさせておく。どちらを選ぶかを根拠をもって判断できるようにさせる。</li> </ul>
45	<p><u>今日の学習を振り返ろう</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班で決まったことを自分のプリントに書き写し、準備などを確認する。</li> <li>・本時の振り返りを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回の準備をしながら、切り干し大根作りへの期待を互いに共有させたい。</li> </ul>

#### (4) 評価

- ・それぞれが調べた切り干し大根を作る方法を出し合い、班で話し合い、自分たちの班が作る方法を決定することができたか。